

平成 19 年度 事業報告書

【活動状況及び成果】

平成 8 年の結成以来、春の植樹デー、夏の草刈デー、秋の観察デーを実施し、植樹地に集まり、「足尾の山を緑に、渡良瀬川に清流を」をモットーに、各種の事業を展開してきました。

植樹デーは、参加者が年々増え、初年度には 160 人で 100 本の苗木を植えましたが、平成 19 年度は 1,350 人で 4,600 本を植えるまでになりました。平成 17 年第 10 回植樹デーより、参加者が 1,000 人を超えたことから、これまで 4 月の第 4 日曜日実施していたものを、4 月の第 4 土・日の 2 日間で実施した。これまで 12 年間で、約 2.5 ヘクタールの地域に、参加者延 8,360 人が 35,300 本の苗木を植えたこととなります。

草刈デーと観察デーは、苗木の周囲の除草や、鹿の食害除けネット張り、生育状況の観察などを行っています。

さらに、8 月には足尾グリーンフォーラムを開催、講演会、シンポジウム・パネル展示のほかに各種イベントを行い、さまざまな課題を検討するとともに、参加者相互の交流を深めています。

一方、足尾での体験植樹を希望する小中学校や各種団体も年々増え、今年は 140 団体の参加がありました。平成 8 年から延 773 団体が訪れ、そのほとんどの団体に植樹指導をしてきました。全国的な環境保護世論の高まりの中で、次代を担う子どもたちに環境保護の大切さを訴えるのに、足尾ほど適したところはなく、体験植樹はますます増えていくと思われます。

こうした参加者の増加、体験植樹の増加とともに、樹木の成長が顕著となってきました。初年度に植えた苗木は 3 ~ 4 m となったものもあり、夏の草刈はたいへんな労働量となってきました。ハチやトンボなどの昆虫も見られ、鳥の鳴き声も聞こえてくるようになりました。これらは、確実に活動の成果であり、自然の回復の兆しといえます。

【今後の展開】

参加者の増加と活動内容の拡大に対し、組織的にはスタッフの補充や財政の確立を図る必要があると考えています。また、植樹地の確保が不可欠であり、関係機関との連携を強化し、官民協働社会の構築に努めていきます。

足尾の山々が鬱蒼としたかつての森林を取り戻すには、まだまだ気の遠くなるような歳月を必要とします。継続していくことが大切だと考え活動していきます。

・特定非営利活動に係る事業

1 足尾ダム周辺の荒廃地緑化事業

第12回 春の植樹デー

実施日時：4月21・22日(日) 10時～13時

実施場所：足尾町松木地区「久蔵沢左岸(上桐久保)」(日光治山事務所管理地)

参加者：1,350人 植樹本数：4,600本

参照：植樹デーチラシ・実施要項

夏の草刈デー

実施日時：7月16日(月)休日

実施場所：足尾町松木地区「大畑沢緑の砂防ゾーン」と「春の植樹地」に分けて実施

参加者：120人

秋の観察デー

実施日時：11月11日(日)

実施場所：足尾町松木地区「大畑沢緑の砂防ゾーン」

参加者：110人

作業デー

実施日時：3月～11月の第3土曜日、日曜日

実施場所：足尾町松木地区「大畑沢緑の砂防ゾーン」

参加者：各日10～30名

内容：体験植樹の増加や苗木の成長と共に、各種の作業が増えてきました。実施日を2日間に増やし対応しています。苗木の管理、土づくり、植樹予定地の整備、用具の管理、鹿の食害防止など、多様な作業があります。

2 講習会、研修会等の開催事業

第8回 足尾グリーンフォーラム

実施日時：8月26日(日)

実施場所：足尾町松木地区 銅親水公園及び環境学習センター

参加者：250名

内容：○午前の部...体験植樹、魚のつかみ取り大会、福引き大会、沢入国際サーカス学校の生徒による大道芸、パネル展示、足尾特産品・物品販売、粘土団子作り、紙根っこん作り、3D体感シアター自然災害体験

○午後の部...記念講演 立松和平氏「南極から地球を考える」

グリーンシンポジウム 立松さんと語ろう

コーディネーター：若林 治美氏(下野新聞社論説室)

パネラー：立松 和平氏(足尾に緑を育てる会顧問)

：その他、ポジュウム参加者

コメンテーター：神山 英昭 会長

参照：フォーラムチラシ、プログラム

3 体験植樹支援事業(その他の事業に係る事業、1)にまとめて記載。

4 関係文献の収集事業

・足尾環境資料室開設

住所：足尾町松原2-9

内容：平成17年10月1日にオープン。資料室では「足尾銅山と足尾町」「環境問題と緑化事業」など、一般書籍や雑誌など約2,000点を公開しています。

5 足尾環境学習センター指定管理者事業

- ・足尾環境学習センターの管理運営

住 所：足尾町銅親水公園内

内 容：平成18年4月より、町営施設「足尾環境学習センター」の管理運営を当会が担当することになりました。センターは、足尾銅山の歴史を紹介するとともに、自然の大切さと環境問題を学べる施設としてオープンしました。松木地区の入口に位置することから、体験植樹などフィールドでの体験学習と連動して機能することが重要と考えています。

6 会報等出版物の発行事業

育てる会通信 第7・8号 発行

7 調査研究、情報収集及び提供事業

- ・ホームページで活動を紹介

「足尾に緑を育てる会ホームページ」<http://www.ashio-midori.com>

8 その他

- ・トレッキング in 足尾

当会主催、5月 - 備前楯山・8月 - 松木溪谷散策

足尾には荒廃地もあれば、緑滴る山もあります。植樹活動や歴史の説明を加えながら、各10～40名程でトレッキングを楽しみました。

- ・イベント、キャンペーンなどへの参加

・今市市社会福祉協議会主催の今市ボランティア・市民活動フェスタ2006

・イオン、幸せの黄色いレシートキャンペーン

・うつのみやエコ・プロジェクト2006

- ・講演会、シンポジウム、会議などへの参加

・「県民協働による森づくり」日光地区推進協議会 会長（1月）

・足尾まるごと井戸端会議 - 足尾の産業遺産と環境学習を生かしたまちづくりを目指す

・栃木県 弁護士会シンポジウムで会長が参加（2月）

・みんなが主役「森づくりの集い」宇都宮市健康の森 会長・山本（2月）

・足利東ロータリクラブ 講話 会長 足利プリオパレス（3月）

・第8回関東地方整備局「砂防関係工事安全施行研究発表会」 講演（3月）

・国土交通省安全対策研究発表大会で講話 会長 桐生市文化会館（3月）

・山形県 東根市立東根小学校訪問 大ケヤキの木 見学（7月）

・元気な森づくり県民会議 会長

・世界産に関する勉強会 県文化財 江連課長より説明

・あしたのまち・くらしづくり全国フォーラム参加 表彰式 - 内閣官房長官賞受賞（11月）

- ・受賞など

・あしたのまち・くらしづくり活動賞受賞（優秀賞）

まち・くらしづくり活動部門より内閣官房長官賞受賞（あしたの日本を創る会）

その他の事業に係る事業

1 体験植樹支援受託事業

体験植樹

実施日時：4月～11月

実施場所：足尾町松木地区

参加者：140団体（業務委託71、育てる会61、団体独自8）

植樹本数：12,648本

内容：「公害の原点」の地で自らの植樹体験を通して広く環境問題を考える。こうしたコンセプトでの体験植樹の希望が急増し、今年は140団体の参加がありました。国土交通省よりの業務委託として当会が対応したのが71団体。パンフレットの送付、道具の準備、歴史や植え方の説明、植樹指導、後片付け、アンケートの集計等の作業をしています。育てる会受付は61団体。前記作業に加え受付、場所の確保をしています。

植樹は、山腹基礎工という山肌を植樹のできる状態にする工事の後に実施します。希望者の急増により、安全に植樹できる場所の確保が難しくなってきました。育てる会は基本的に小さな苗木を1人1本植える方法ですが、広い場所が必要となります。国土交通省では、20人ほどで1.5mほどの木を1本植える方法をとっています。今後増えることを考慮し、学校等には業務委託での体験植樹をお願いしています。

参照：通信8号3・4P

2 物品販売事業

- ・書籍販売：「よみがえれ、足尾の緑」「足尾の緑」（会報）等を販売
- ・ビデオ：「よみがえれ 足尾の緑」を販売
- ・Tシャツを販売